

一 次の各問に答えなさい。

問一 次の――部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。

- 1 選挙制度をカイカクする。
- 2 真実をツイキユウする。
- 3 ケイサツシヨで働く。
- 4 ギョギョウを学ぶ。
- 5 何事もセイジツに行く。
- 6 ミンシュウの声を聴く。
- 7 入場がキョカされた。
- 8 テツボウに挑戦した。
- 9 この話はヒミツだ。
- 10 試合はエンチヨウになった。
- 11 神様を敬う。
- 12 厳しい指導を受ける。
- 13 宿舎の掃除をした。
- 14 バイオリンを奏でる。
- 15 山の頂を目指す。

問二 次の四字熟語の空欄に入る漢字を書きなさい。

- 1 針□棒大 …おおげさに言うこと。
- 2 絶□絶命 …さわめて困難な状態。
- 3 異□同音 …口をそろえて同じことを言うこと。
- 4 馬□東風 …人の意見などを気にとめず、聞き流すこと。
- 5 八□美人 …誰にでも愛想よく振る舞うこと。

三 次の文章を読み、あとの各問に答えなさい。

愛って何か。

アンパンマンは時々、自分の悪口を言う相手のことを助けることがあります。アンパンマンはヒーローだから、それをねたんで悪口を言うのがいるんだね。悪口を言っているのをアンパンマンは知っているのか知らないのか分からないけれど、彼等が困っている時にはアンパンマンは助けます。「悪口言ったばくを助けてくれるの？」と聞かれても「気にしないで。誰にだって失敗はあるんだから」と言う。

それはアンパンマンの愛が大きいから言えることなんだよね。そういう大きな愛は親子とか兄弟の中にもあると思いますよ。

それから、何かを決断する時、何かをやるうとするときには必ず勇気が必要です。スポーツでも仕事でもみんな必要。おびえていると何もできません。

勇気は目に見えません。ぼくは勇気ってなんだろうと思った時に勇気リンリンというくらいだから鈴の形をしているのかな、リンリン鈴の音と同じだと思って、「アンパンマン」の物語ではユウキの鈴というキャラクターを作ってしまいましたけれど。アンパンマンだって勇気の花のジュースを入れないと何もできません。

線路に落ちた人を助けようとする、助けた人は死んじゃうかもしれない。川でおぼれている子どもを助けようすると、助けた人が死んじゃうということも非常に多い。事実、先生が子どもを助けるために川に飛び込んで子どもは助かったのに先生が死んでしまったという話もありますね。それでも飛び込むのです。

愛には、**ア**も含まれていて、勇気にはやさしさが含まれている。

死んでしまったのは、正しいことをしたからです。もし知らん顔をしていれば先生は死ななかった。そうやって自分が傷ついてもやるという気持ちがあれば、正義は行えないんです。

アンパンマンは、自分の顔を子どもに食べさせるのだから、ある面では自己犠牲です。正義を行う場合には、本人も傷つくということがある程度覚悟しないとできません。

普通の人でもヒーローになることはできます。誰でもなれると思いますよ。でもそれは、追いつめられないと分からない。自分がやむにやまれぬ立場にたった時でないとダメです。

でも、ヒーローになんてならない方がいいけどね。寂しいし、あんまりいいもんじゃない。誰かに感謝されたりもしないし。

ぼくが三越で働いていた時、みんな用事がなくても残業をしていたんですよ。当時、残業をする手当がついて夜食も出ました。だから無理にでも残業するんですね。ぼくは定時にさっさと帰る。そうすると周りに悪く言われるんですね。みんなと一緒に居残りしなかったから。

本当は定時の間に仕事を終わらせるのが正しいんです。だからだやって無理やり残業するのは良くない。でも残業しないと誉められるかというと、なかなか立派だとは誰も言わないで悪口を言われる。いじめっ子をかばっても、あの野郎ひとりだけいいことやりがつて悪口言われるのと同じですね。

社会でも同じことはあります。会社の全体で偽装をしている時に、それを摘発するとします。それは正しいことなんです。でも摘発した人はどうなるかというと、みんなにほめられるのではなく会社から左遷されたり、取引先から「あいつは余計なこと言うから危ない」と阻害されたり、あいつが言ったから会社がつぶれたと言われたりして、そうほめられやしない。本当に正しいこ

とをしても、余計なことをされたと逆にやられてしまうことはよくあります。

イ、みんな傷つきたくないから正義なんてやらない。長いものには巻かれると巻かれてしまうわけ。部長が言うことなら、悪いなと思ってでも仕方なくやってしまう。良心はやや痛むでしょうけれどもね。それで責任は取られる。

でも、それではいけないのですね。傷ついてもやがなくなっちゃいけない。そうしないと世の中はどんどん悪くなってしまふんですね。敢然として自分が傷つくことを恐れずやらなくなっちゃいけない。

ヒーローとは少し違うけれど、戦い方とか、強さ弱さっていうのは誰にでもそれぞれのやり方があると思います。

アンパンマンのキャラクターだって、みんな違いますよ。

キンちゃんには嘘泣き名人。男は女の人に泣かれると弱いんだよね。だから嘘泣きしてだますというふうにした。でも嘘泣きする女は多いから共感をよんで今では人気のキャラクターです。切羽詰まったらわーっとやるから、みんな手を出さなくなっちゃう。キンちゃんは泣くことで強いのもかもしれませんね。

あかちゃんまんというのがあります。一番弱い者だから一番強い。あかちゃんまんは眠っていて夢の世界で冒険をします。夢の国と現実の世界を自由に往復できるのは、あかちゃんまんなだけです。赤ちゃんには誰かかわらない。そういう強さもあります。

アンパンマン自身は、人が喜んだりアンパンを食べるみんなが「おいしい」と言ってくれるのが何より嬉しいんだよね。なぜかという、それは実はぼく自身もそうだからなのです。「アンパンマンのマーチ」の中に、

なんのために 生まれて
なにをして 生きるのか

という歌詞があります。これは、ぼくの人生のテーマソングでもあります。ぼくはみんなが楽しんで喜んでくれるのが一番嬉しい。

自分の才能というのは、いろいろやっているうちにヒュッと、これかなあというのが分かるものです。非常に早く自分の才能に気がつく人もいるし、ぼくみたいに遅い人もいます。自分は何なのか、天職としてやっていくというのは何なのか、ということとはとても分かりにくいんですね。ぼくはナンセンスとかメルヘンとかいろいろやって、あっちもダメ、こっちもダメとやっているうちにやっと座り心地のいいところに行き着いた。

生まれながらの天才という人だって、たまにはいます。そういう人はさして努力をしなくてもやりたいことをできる。でも、そんな人は滅多にいないんです。普通の人々が努力しないでやるうなんて無理なんですよ。

大天才の一つ下の天才というような人もいて、そういう人ははじめから不思議な才能に恵まれています。でも長続きせずに夭折してしまう。あるいはその人が死んでからやっと世の中の人にすごさが分かる。でもあとの九九パーセントが普通の凡人ですから、凡人の中でやっていくよりしょうがないわけなんだけれどね。それでもそれぞれが何かの分野でいくらかの才能はもっているもので、いくらかの**エ**を**オ**しかない。

(やなせたかし『わたしが正義について語るなら』より)

※1夭折……年若くして死ぬこと。

問一 部1「アンパンマンは時々、自分の悪口を言う相手のことを助けることがあります」とありますが、それはなぜですか。本文中より七字で抜き出さない。

問二 ア にあてはまる最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 美しさ 2 勇ましさ 3 面白さ 4 嬉しさ

問三 部2「自己犠牲」とありますが、ここではだれが何をどうすることですか。具体的に説明しなさい。

問四 イ ウ にあてはまる最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 ところで 2 でも 3 よって 4 だから

問五 部3「長いものには巻かれる」とありますが、それはどういう意味ですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 地位や権力にしばらくされると身動きが取れなくなるので氣をつけた方がよいということ。
2 長いものはそのままでは使いつらいので巻いて使う方がよいということ。
3 権力のある者や強い者には逆らわずに従う方が得策だということ。
4 地位や権力のあるものをだしぬくには従ったふりをするのが一番だということ。

問六 部4「戦い方とか、強さ弱さっていうのはだれにでもそれぞれのやり方がある」とありますが、それはどういうことですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 コキンちゃんやあかちゃんまんなどの一見弱そうな人にも、それぞれ自分に合ったやり方や強さがあるということ。
2 嘘泣き名人のコキンちゃんや夢の世界で冒険できるあかちゃんまんには力がないため、弱さがあるということ。
3 コキンちゃんはヒーローではないが、自分の強さをいかせばアンパンマンを倒すことだって可能だということ。
4 あかちゃんまんはヒーローではないが、実はどのキャラクターよりも強い最強の存在であるということ。

問七 文中の エ オ にあてはまる言葉を、考えて書きなさい。

問八 本文の内容と一致するものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 筆者は生まれながらの天才だが、そうでない人は努力して才能を開花させなければならぬ。
2 子どもを助けようとして死んでしまう人のように、正しいことをしたとしても自分が傷ついては意味がないから、まず自分を大切にすべきだ。
3 筆者はすぐに自分の才能に気づいたわけではなかったが、いろいろなことに挑戦し、自分の才能をいかせる仕事を見つけたことができた。
4 アンパンマンは正義の味方であるため、仲間がピンチのときは必ず助けるが、敵を助けるようなことは絶対にしない。
5 アンパンマンよりも、嘘泣きをするコキンちゃんや夢の世界と現実の世界を自由に行き来できるあかちゃんまんのほうが、実は強い。
6 社会では、正しいことをしても周りが責められたり悪く言われたりすることもあるが、たとえ自分が傷ついてでもやらなければならないこともある。

三 次の文章を読み、あとの各問に答えなさい。

枝越しに空が見える。葉がほとんど残っていない枝は、それでもなお手を大きく広げて立っている。この木、この枝、この風景。早く、画用紙に写し出したい。下書きをするのもどかし、私は鉛筆ではなく、筆を手にした。幹の焦げた色、曇った空の重い色、葉の枯れた色。どれも、¹ 絵の具にはない色だ。パレットに思い付くままに絵の具をしぼり出し、どんどん色を混ぜ合わせていく。田村さんのお父さんは本格的に絵を描いていたのだろうか。筆も絵の具も質のいいもので、使い心地はともよかった。小さな画用紙の上を滑るように絵の具が載っていった。

子どもの頃、私は絵を描くのにとっても時間がかかった。何を描くのかを決めるのも、どの色を使うのかを決めるのにもかなりの時間を費やした。いざ描きはじめても、一本一本の線を引くにも、色を作るのにも時間がかかった。小学校の頃は、それを丁寧だと教師は評価してくれた。だけど、高校生になると、A と減点材料となった。

今は、不思議なほど自然と手が動いた。何の迷いもなく、線を描き、色を作っていく。とにかく早く、この景色を絵にしたい。私の筆は勢いよく画用紙の上を動いた。

絵は、三十分もかけずに出来上がった。ひたすら筆を動かすことだけに集中していたから、描き上げた時には ² ものすごい充実感があった。最後に空を塗りおえて、筆を置いた時には爽快感すらあった。とにかく気持ちよかった。絵にしたかったものを描き終えた。身体中がすっきりと澄んでいくようだった。

ところが、出来上がった絵を眺めてみて、私は自分で爆笑してしまった。

灰色の濁った空の真ん中に茶色いひよろほの木の木が浮かぶ不思議な絵。

私の絵は、³ 楓も空も何一つ正確に写し出していなかった。葉も枝も幹も、目の前にあるものとはまったく違う。その良さはどこにも表されていない。やっぱり私の絵に関する才能は皆無だったのだ。

「いくらなんでもひどすぎる……」

私は一人でそうつぶやいて、また笑った。

そして、私が描いたとんでもなくへたくそな絵は、私に³答えを教えてくれた。

私は自然を見ることはできても、それを描き出すことはできない。自然の中に入ることはできても、自然と共に暮らせる人間ではないのだ。

私はこの地が好きだ。朝露に湿った道を歩くのも、夕焼けにそまる枯れ枝を見上げるのも大好きだ。葉の匂い、風の音、きれいな水、きれいな空気。どれも捨てがたい。おいしい食事に、心地よい眠り。この生活にも身体が順応している。古い民宿だって、鶏たちだって気に入ってる。だけど、ここには私のするべきことはどこにもない。自然は私を受け入れてくれるし、たくさん

のものを与えてくれる。でも、私はここで何をすればいいのかわからない。

都会に戻ったからって、するべきことがあるわけじゃない。やりたいこともない。存在の意義なんて結局どこへ行たって、わからないかもしれない。けれど、それに近付こうとしないといけない気はする。ここで暮らすのは、たぶん違う。ここには私の日常はない。ここにはいてはダメなのだ。

私には、田村さんのようにこの地を守らないといけないという使命はない。畑のおばあさんのように全てにとられず自分のルールで生きていく強さもない。パン屋のおばさんみたいにこの地に惚れ込んでしまえるようなまっすぐさもない。

ここから抜け出すにはパワーがいる。だけど、気づいたのなら行かなくてはいけない。今行かないと、また決心が緩む。そして、私はやるべきことがないのを知りながら、ここでただ生きるだけに時間を使うことになってしまう。それは心地よいけど、だめだ。温かい所にいてはだめだ。私はまだ若い。この地で悟るにはまだ早い。私は私の日常をちゃんと作っていかなくちゃいけない。まだ、何かをしなくちゃいけない。もう休むのはおしまいだ。

(中略)

おいしいものを食べると、どうしても決心が鈍りそうになる。でも、思い立ったら、すぐに動かなくてはいけない。このままだといつまでもここから抜け出せない。私は三杯目のそばを食べ終え、箸を置くと、口を開いた。

「そろそろ、出ようかと思うんです」

「そうか。そやな。えらい長居しすぎたもんな」

田村さんは、まったく驚きもせず、そば湯を飲みながらごく自然に私の言葉を受け取った。

「ここにずっといられたらなあと思ってましたんですけど……」

「ここに来て、五日くらいはみんなそう言うで。廃屋もあるし、土地も余ってるし、ここに住もうかって言う。でも、ちやうやろ？」

「ええ」

「ここはほんまええ所や。ここにはたくさんすてきなものがあるし、生きていくために必要なものはふんだんに最高の形で目の前にある。そやけど、あんたにはそれだけではあかんやろ？」

田村さんの言葉に私は静かに頷いた。

「もうすぐここにすごい冬が来る。冬になったら、ほんま動かれへん。冬になると、この集落はほんま閉ざされてしまうからな。その前に帰った方がええな。うん。今日がええ頃合いや。明日はまた天気が崩れるらしいから、思い立ったら吉日や」

- 6 -

田村さんはそう言うのと、早速片づけのため立ち上がった。

あまりの早い展開に、私の方が戸惑った。突き放されたような気さえた。4 だけど、それでいい。私もそば湯を飲み干すと、帰り支度をはじめた。ほとんど空っぽだった鞆に、ここへ来てから買った洋服やらを詰めると、すぐに満杯になってしまった。おじいちゃんにもらった大きい鞆を持ってきておいてよかった。

自分の荷物を片づけると、私は部屋を掃除した。畳を雑巾で拭き、窓と机を拭いた。来た時には^Bと湿気ていた部屋が、二十日あまり寝起きしただけで、すっかり私のもののようになってしまっていた。これといって、物が増えたわけじゃないし、様子も来た時とはほとんど変わっていない。だけど、私の日々が砂壁や木の柱にしっかりと刻まれていた。

着替えを済ませ荷物を持って下へ降りると、田村さんが忙しく動いていた。

「何してるんですか？」

「街へ戻ったら、なかなかええもん食われへんやろ？」

白菜、大根、卵。魚の干物、打ったばかりのそば。田村さんはそれらを次々と紙袋に入れていた。

「そんないっぱい、いいですよ」

「そう言わんと、まあ、持って帰り」

田村さんは私が止めるのも聞かず、^C紙袋に食料を詰め込んだ。何だか、田舎のおばあちゃん家に行った時みたいで、私は吹きだしてしまった。

「なんや」

「田村さん、おばあちゃんみたいだと思って。おばあちゃん家に行くと、おばあちゃん、いつもあれ持って帰れ、これ持って帰れって、荷物になるのにいらぬものばかりいろいろ出してくるんですよ。それとそっくり」

「あんたって、ほんま遠慮のない人やなあ」

「え？ 遠慮してますよ。だから、そんないっぱいいらぬって、言ってるじゃないですか」

「そういう意味とちゃうわ。まあ、ええわ。とにかく持って帰って。今は寒いし、日持ちするでな」

田村さんは手際よく、食料の詰まった大きな紙袋を二つ作り上げた。

「こんなの持って、電車に乗ったらみんなに笑われそう」

「そんなもん、誰も見てへんわ」

「確かに。なんちゃないですね」

すかさずだった旅行鞆はぎゅうぎゅう詰めになり、それだけでは足りず、両手にいっぱいの荷物になった。ここへ来た時、あんなに軽かった荷物が、今はずっしり重い。

(瀬尾まいこ『天国はまだ遠く』より)

- 7 -

問一

部1「絵の具にはない」とありますが、それはどういうことですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 自然の世界の色は、人間が表現してはいけないということ。
- 2 絵の具ではどう工夫しても表現することができない色だということ。
- 3 絵の具にはない色なので、カメラをつかう必要があるということ。
- 4 そのままの絵の具の色では表現できない色だということ。

問二

Aには、どのような語を当てはめるのがよいですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 肝が太い
- 2 鼻にかける
- 3 手を焼く
- 4 手際が悪い

問三

部2「ものすごい充実感」とありますが、「私」が充実感を感じたのはなぜですか。次の中からその理由として最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 絵にしたかったものが短い時間でできあがったから。
- 2 絵にしたかった景色を夢中になって描きあげたから。
- 3 最後に塗り終えた空が思った通りに描けたから。
- 4 景色によって、身体の中が澄んでいく気分になったから。

問四

部3「答え」とありますが、それはどのようなものですか。次の中から最も適切なものを二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は自然の中で暮らすのに向いていないのだということ。
- 2 絵のへたな人間は自然の中で暮らすはいけないということ。
- 3 人間が自然とともに暮らすことは不可能だということ。
- 4 「私」はこの自然に囲まれた土地が好きだということ。
- 5 「私」には自然を描き出す力はないのだということ。

問五

部4「だけど、それでいい」について、次のi、iiの問に答えなさい。

i 「それ」とは、どのようなことですか。四十字以内で答えなさい。

ii なぜそのように考えたのですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 突き放してもらったことで、この土地を離れようという決心が鈍らずにすむから。
- 2 突き放してもらったことで、この土地のことを嫌いになることができるから。
- 3 田村さんのいうことはいつも正しいため、間違いないの判断ができると思えたから。
- 4 これから冬がやってくるため、この町から出ることができなくなってしまうから。

問六

B C にあてはまる語として、次の中から最も適切なものをそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 しんなり | 2 さらり | 3 ひんやり |
| 4 どんどん | 5 きらきら | 6 ぐんぐん |

問七

部5の「遠慮」についての説明として、次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は田村さんがおばあちゃんのようにだと思い、食料をもらっては悪いと遠慮している。
- 2 「私」はたくさんの食料をもらって帰りたいという本音を隠すために遠慮している。
- 3 「私」は食料をくれる田村さんに親しみを覚えつつ、少しだけでありがたいと遠慮している。
- 4 「私」はそばを食べ終わった後で満腹だったので、食料はいらないと遠慮している。

問八

部6「ここへ来た時、あんなに軽かった荷物が、今はずっしり重い」とありますが、ここからどのようなことが読みとれますか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 この土地での時間が「私」にはまだやるべきことがあると知る、とてもよいものだったということ。
- 2 この土地でたくさんものを頂いたため、「私」は今まで以上に悩み、苦しむようになってしまったということ。
- 3 この土地を去ることになったが、ここで過ごしたことでこの土地への愛情をもったということ。
- 4 この土地を去ることになったが、田村さんのおかげで「私」が成長できたということ。

二〇一七年度（第一回）入学試験 国語 解答用紙

受験番号	
氏 名	

得 点

一
問一
1
2
3

4
5
6

7
8
9

10
11
う
12
しい

13
14
でる
15

1
2
3
4
5

二
問一

問二

問三

問四
イ
ウ

問五
問六

問七
才
工
を

問八

問一
問二

問三
問四

問五			
i			

ii

問六
B
C

問七
問八